

令和5年4月5日

令和5年度 入学式告辞

九州工業大学長 三谷康範

新入生の皆さん、また、ご家族・ご親族の皆様、ご入学おめでとうございます。春爛漫の今日、九州工業大学に皆さんを迎えることができましたことは、教職員並びに在学生一同そして本学に関わる多くの人々にとってこの上ない喜びであります。新入生の皆さんはもちろん、新入生の皆さんを支えてこられたご家族・ご親族の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。本日は、九州工業大学を代表して、私からお祝いの言葉を申し述べさせていただきます。

この3年間、新型コロナウイルス感染症に日常が翻弄され続けてきましたが、ようやく出口が見えてまいりました。コロナ禍により入学式の挙行を断念した年もあった中、本日こうして皆さんをお迎えして、入学式を挙行できますことは、私たちにとってもこの上ない喜びです。皆さんにおかれましてはこの3年間様々な苦労を経験されたと思います。改めて、この日を迎えられました皆さんのご努力に敬意を表します。この間、遠隔授業の仕組みが発達し、離れた場所からでも学びを継続できる環境も整いましたが、これから皆さんが過ごすこの九州工業大学は秀でた技術力を持つユニークな企業が数多くある地域に立地し、デジタルトランスフォーメーションやグリーントランスフォーメーションを標榜する多くの企業が集積し、それを支える自治体の活動も充実しています。地理的・歴史的にも恵まれた環境にあり、これからこの地で学ぶことの意義を分かち合えればと考えております。

本学は、1909年に開学した私立明治専門学校を前身としています。この学校は、飯塚キャンパスがある筑豊において石炭ビジネスを起し、戸畑キャンパスと若松キャンパスがある北九州市に本社を持つ安川電機など数々の関連企業の設立に関わった安川敬一郎氏の私的な投資によって日本を支える技術者養成のために設立されました。1901年に東田第1高炉の操業が開始され、当時、国の産業政策の最上位に位置付けられた官営八幡製鉄所の関連技術を支えました。このような背景で設立された明治専門学校では、開学時に、建学の精神である「技術に堪能なる士君子」の養成という理念が掲げられました。「士君子」とは、学問、人格ともにすぐれた立派な人を表しますが、技術に精通した知性と教養が溢れるエンジニアの養成と新技術の創出を念頭に教育を行い、後に私立から官立、そして国立九州工業大学へと移行する中で建学の精神を脈々と引き継いで、教育、研究、社会貢献の内容を充実させてまいりました。これまでに輩出された7万人を超える卒業生は、日本はもとより世界を舞台に活躍しております。

さて、明治専門学校開校にあたり初代総長としてお迎えした山川健次郎先生は、幕末から明治維新を白虎隊の一員として激動の会津の地で過ごされました。九死に一生を得て、戦乱終了後は、志し新たに理学の道に進まれ、米国留学の機会を得て、苦学ののちに日本人初の理学博士号を取得さ

れています。米国留学が山川先生の人生の航路に大きな影響を与えたことは疑いの余地がありません。このように貪欲に外の世界を知ろうとすることは人格形成に欠かせない機会であります。本学ではコロナ禍前までは年間延べ700名以上の学生が海外渡航経験をっていました。この3年間、海外渡航が制限される中、遠隔会議システムが発展し、学生のみなさんは日本に居ながら海外と繋がり、交流の機会を得てきました。そしてコロナ禍が未だ落ち着かない中でも、海外で学びたいとの意欲を持って何人かの学生が勇気を持って日本を飛び出し、海外に長期滞在して貴重な体験をしてくれました。百聞は一見に如かずで、実際に行くとは行かないでは雲泥の差です。先駆者となる彼らの行動に触発されて徐々に海外でのリアルな活動が増えてきていることは我々教職員にも大いなる勇気を与えてくれました。新入生の皆さんも是非色々なことに挑戦してください。本学では多種多様な挑戦の機会を用意して皆さんをお待ちしております。

現在、「未来の技術に出会うキャンパス」を目指して、キャンパス内に相互作用を作り出す学修や交流の空間、5Gの次の世代の通信技術である Beyond 5G に関する国のプロジェクトのテスト環境、多様性あふれる人々が集まって共に創る場所という意味の共創空間など様々な仕掛けを順次構築して皆さんをお待ちしています。共創空間は、普段は接しない教員や、企業の方々、留学生とも交流できる新しい出会いの場となっています。こうした多くの仕掛けによって、キャンパス内には学生や教員だけでなく、企業人やスタートアップを興そうとする熱気あふれる人々が集い、その中から皆さんが自らの将来を想像するためのロールモデルを見つけ出すこともできるようになります。

分野が異なる技術と人の出会いがイノベーションを創出します。課題は技術を進歩させ、技術の進歩はまた新たな課題を生じさせます。一方で、日本の産業は技術力では勝るもののビジネス展開力において世界の国々の後塵を拝しています。海外に行くと感じるのが、学生を含めた若い世代が積極的にビジネスモデルの構築に関わり意欲的に活動しており、その勢いが旋風となって産業界を活気付けているということです。皆さんが、多くの方々と交流し、柔軟な発想のもとで今はまだない技術や方法を生み出し、それらを解決していくことが重要になります。多様な考え方を認め合い、知恵を出し合って、技術の裏に潜むリスクを見極め、リスクを克服した社会的価値を生み出す課題解決に貢献することができるように、学生時代に学び、考え、多くの事を試みてください。九州工業大学ではこうした環境づくりに特に力を入れ、皆さんをお待ちしております。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症は未だその感染リスクを残しています。しかしながら、実社会でゼロリスクはあり得ません。様々な制約がある中ではありますが、入学された皆さんが、社会生活の中でリスクを上手にコントロールし、かけがえのない日々の暮らしや人の命の尊さについて考え、自らの健康に十分留意され、生活と学びを楽しみ、意義ある大学生活もしくは大学院生活を過ごされますことを心から希望し、告辞といたします。本日は誠にありがとうございます。